



石巻西高実況中継

～学校の情報や生徒の様子をリアルタイムで家庭に届けます～

令和 3年 3月 1日 第17号

発行者：校長 菅野 定行

祝 第34回卒業証書授与式

— 校長式辞 —

日差しが明るさが日ごとに増し、春の訪れを感じられる今日の佳き日、本校PTA会長 水沼修一様をはじめとする多数の皆さまのご臨席を賜り、第34回の卒業証書授与式を挙げていきますこと、卒業生はもとより、在校生及び職員一同、心より感謝申し上げます。

ただいま3年間の学業の証として卒業証書を手にしたみなさん、おめでとうございます。諸君は入学以来、本校の教育活動に主体的に取り組み、3年間の教育課程を無事修了しました。この石巻西高校の最高学年として、その名に恥じない成果を上げ、自らの責務を見事に全うしました。

また、年度末のお忙しいなかおいでくださいました保護者の皆さま、お子様のご卒業おめでとうございます。10代後半という多感な時期、お子様にとってかけがえのない3年間を温かく見守り、励まし続けられたことに敬意を表します。また、3年間にわたり本校の教育活動に深いご理解と心強いご支援を賜りましたこと、謹んで御礼申し上げます。今年度は感染症拡大予防のため、ご出席の人数に制限を加えなければならず、大変心苦しく思っておりますが、我々職員一同心を込めて卒業生を送り出したいと考えております。

さて、卒業生諸君の門出にあたり一言述べさせていただきます。

振り返ると、昨年今頃はこのような一年を送るようになるとは思っていませんでした。約3ヶ月にわたる休校期間、学校再開後も皆さんの部活動の成果となるはずであった県総体も開催できませんでした。西翔祭をはじめとする学校行事も例年通りの規模の開催はかなわず、友人とのコミュニケーションも遠慮しながらの状態を余儀なくされるなど、モヤモヤがたまる日々だったのではないのでしょうか。また、東日本大震災の記憶が薄れつつあった先日、再び震度6の地震が宮城県を襲いました。約10年が経過しても震災の影響が残っているわけです。我々の想像を超える自然の力をまざまざと見せつけさせられた思いがします。

集会で私が君たちに再三話したことの中に、「未来は予測不可能」という言葉があったことを覚えているでしょうか。新型コロナウイルス感染症、震災、そして、国内外の社会の大きな変化を見てみても、これからも我々が予想もできないようなことが起こるのでしょうし、皆さんはそういった社会でこれからの約80年間を生きていくこととなります。

このような社会で暮らし、自己実現を図るためには今までの学校教育で身に付けた知識・技能だけではおそらく足りません、未来は変わるのですから。「今必要とされるスキル」を習得しただけで通用するのはせいぜい10年程度。では、どのような力が必要とされるのか。国では次のように定めています。

経済産業省は2006年に「社会人基礎力」として「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」をあげました。文部科学省は2011年に「基礎的・汎用的能力」として「人間関係・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力」をあげています。

どうです、これらの言葉、西高での学びの中で幾度となく聞いた言葉ではないですか。総合的な学習の時間では、「街クエスト」の活動を通して、地域に踏み出し仲間と協働して課題に向き合いました。

「SDGs 地域課題研究」では関心のある地域課題を自分事と捉え、その解決に取り組みながら自らの将来をイメージしてもらいました。教科の学びも同様に、周囲との関係性を大切にする取り組みが数多く設けられていたことを思い出せるでしょう。今年度は学校行事を行う際にも皆さんの力を借りました。コロナ禍での行事づくり、皆さんの新鮮でユニークなアイデアが実を結び、いずれの行事も思い出深い、そして何より皆さんにとって深い学びの機会になったと考えています。また、生徒会執行部の皆さんには学校運営にも協力してもらいました。学校評議員会や地域協働事業の運営指導委員会では見事なプレゼンテーションを披露し、4月からの制服マイナーチェンジにもたくさんのアイデアをいただきました。女子スラックスは、すでに何名かの在校生も着用していますよね。

このように、卒業生の皆さんは高校3年間の活動を通して、予測不可能な社会へ乗り出し、持続可能な地域未来を創造していくための力を身につけました。人生100年時代を生きる皆さんにとって、これからの学びは続きます。今後の皆さんが学び続けるための「土台づくり・土壌づくり」を我々はある程度できたのではないかと考えています。自信を持ってそれぞれの人生を歩んでください。我々西高職員はこれからも君たちを応援し続けます。みなさんのこれからの人生に光りあらんことを祈念し、式辞といたします。

令和3年3月1日

宮城県石巻西高等学校長
菅野 定行





地域の未来をともに創る

— 探究活動発表会 —

1月31日（日）に石巻グランドホテルにおいて、「本校生徒の地域貢献意欲を育むとともに、探究活動の様子を地域へ発信すること」を目的にした発表会を開催しました。

当日は、東北大学大学院の吉岡敏明教授をはじめ文部科学省指定事業の運営指導委員の方々、管理機関である県教育委員会の代表者、地元市町及び石巻専修大学などのコンソーシアムの関係者に加え、探究型フィールドワークや街クエストなどで本校の取り組みに協力いただいた事業所の方々など、多数の参加をいただきました。



「コロナ禍という難しい状況の中で、皆さんそれぞれが課題意識を持って取り組まれているのが印象的だった」、「実際に足を運ぶという姿勢は今後も大切にしてほしいと思った」など、たくさんのご意見をいただきました。



探究したことを伝えよう

— 1年 地域探究型フィールドワーク発表会 —

12月8日（火）～10日（木）に行った地域探究型フィールドワーク（インターンシップ）の発表会を1月26日（火）に行いました。



密を避けるために分散会場、発表者前にアクリル板を設置、付箋紙による質問・感想の受け渡しなど、十分な感染症対策をして実施しました。

本当に探究していきたい問いとは

— 2年 SDG s 地域課題研究 作戦会議 —

「SDG s 地域課題研究に向けて、事前に作成したワークシートを基に個別面談を行うことにより、テーマを明確にするとともに、今後の活動に見通しを持つことができるようにする」ことを目的とした作戦会議を、1月26日（火）に行いました。



3月18日（木）には、地元市町の関係者や協力事業所など、外部の方々との面談をとおして、今後の探究内容をより良いものにしていく予定にしています。